消基発第 296 号
平成 29 年 5 月 19 日

各都道府県消防防災主管部長 様

消防団員等公務災害補償等共済基金

常務理事 山 崎 一 樹
(公印省略)

「消防団員の公務災害防止～食事による高血圧症などの予防のために～」
の送付について (通知)

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

当基金の業務運営につきましては、平素より格別のご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当基金では、消防団員の公務災害防止のため調査研究を行っており、この度その結果をとりまとめたものを作成いたしました (調査研究の趣旨は別紙参照)。

下記のとおり関係資料をご送付いたしますので、貴管内市町村等の消防団担当部局等への周知及びデータの転送について、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

記

- 『早朝家庭血圧で、現在の循環器疾患のリスクを知る～消防団員の公務災害防止のために～』 (自治医科大学循環器内科主任教授・消防基金評議員 荻尾七臣)
- 『消防団員の公務災害防止～食事による高血圧症などの予防のために～』
- 添付資料『循環器疾患予防のための食生活～消防団員の公務災害防止のために高血圧に気をつけましょう～』
- 添付資料『消防団員の健康状態に関するアンケート調査の概要』

(注) 本調査研究結果 (『消防団員の公務災害防止～食事による高血圧症などの予防のために～』) は、パソコンなどでご覧いただくことを想定しております。

別紙

ここ数十年を振り返りますと、阪神・淡路大震災（平成 7 年 1 月）、新潟県中越地震（平成 16 年 10 月）、東日本大震災（平成 23 年 3 月）、熊本地震（平成 28 年 4 月）をはじめ、数多くの地震が発生し、家屋の倒壊、火災、津波などにより多くの方々が被災されました。また、岩手・宮城内陸地震（平成 20 年 6 月）では地滑りなどにより河川が堰き止められ、土砂ダム決壊による山津波（土石流）が心配されました。さらに、雲仙普賢岳の火砕流（平成 3 年 6 月）、有珠山の噴火（平成 12 年 3 月）、三宅島の噴火（平成 12 年 8 月）、新燃岳の噴火（平成 23 年 1 月）、御嶽山の噴火（平成 26 年 9 月）、口永良部島の噴火（平成 27 年 5 月）など、日本は大地動乱の時代を迎えたという学者もいらっしゃいます。

消防団の皆さんは、これら自然災害に立ち向かい、住民の避難誘導、救助、消火、水門閉鎖、警戒などの活動をされています。また、日頃の備えとして日々の生業のかたわらで厳しい訓練にも励んでおられます。これらの活動には、地域に密着し、地域の実情を把握されていることが何より大切で、地域に住まれ、自分たちの「まち」を守る消防団は無くてはならない存在です。消防団の「使命を果たす」ためには、消防団員一人ひとりが十分活動できなければなりません。もちろん体力に個人差があるのは当然のこととして、その持てる能力をいかに発揮されることが大切です。

しかしながら、過去の「消防団員の健康状態に関するアンケート」（平成 9 年度と平成 26 年度に実施）をみると、消防団員の方々の健康管理や健康増進が十分であるとは言えない状況が散見され、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などの症状を改善されないでいる傾向もうかがえました。これらは重篤な疾病である脳血管疾患（脳梗塞、脳出血）や虚血性心疾患（心筋梗塞）を発病させる原因といえるもので、消防団の「使命を果たす」妨げにもなります。火災や水災の災害の際はもとより、このような疾患により、操法大会のための訓練途上で公務災害に遭遇される事例は後を絶ちません。そして何より、これらの重篤な疾病を発病されて不幸にも死に至られれば、ご家族、知人などの悲しみは計り知れません。

本調査研究では、消防団を管轄される皆様方が、無理なく消防団員の健康増進（疾病予防）に取り組んでいただきますよう、食生活の改善を中心とした調査研究のとりまとめとともに先進事例の紹介などをしてしておりますので、是非消防団員の公務災害防止のために参考としていただければ幸いです。また、併せて、医学的な見地に基づいて、自治医科大学循環器内科苅尾七臣主任教授による「添え状」と自治医科大学附属病院臨床栄養部佐藤敏子栄養管理室長ほかによる「循環器疾患予防のための食生活」を添付しておりますので、是非ご覧ください。

なお、今回の調査研究にあたっては、自治医科大学循環器内科苅尾七臣主任教授、自治医科大学附属病院臨床栄養部佐藤敏子栄養管理室長、自治医科大学附属さいたま医療センター栄養部瀬尾まり管理栄養士、長野市消防団、長野市消防局、長野市保健所、東海市市民福祉部後藤文枝健康いきがい対策監、徳島市保健センターのそれぞれの皆様にご理解、ご協力を頂いたことを深い感謝とともに申し添えます。